

院内活動

茨城県職員バレーボール大会で中央病院チームが優勝!

平成25年10月5日(土)、6日(日)に行われた茨城県職員球技大会中央大会で、茨城県立中央病院バレーボールチームが優勝いたしました。

メンバーは医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職という様々な部署から集まった精鋭たち。そして、勝因はなんといっても、日頃から連携を大切にしているチームワーク力ではないかと思っています。

私たちは医療に携わるものとして、患者さまに対応させていただくにあたり、自らが健康であることが大切だと考えております。これからは各種サークル活動を通じて健康づくりを行っていきます。



笑顔で記念撮影

ご意見

Q&A 意見箱より

Q 若い入院患者さんが大きな声でベッドの上で電話をしているので、年配の患者さんは困っています。電話の持ち込み禁止ですよね。

A この度は携帯電話の使用の件で、不快な思いをされたことを深くお詫び申し上げます。現在、入院時に携帯電話の使用について説明しております。しかし一部の患者さまが病室内で使用しているのが見られます。今後は今まで以上に携帯電話の使用についての説明を徹底し、安楽な療養環境が提供できますように努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。(看護局)

Q 患者駐車場から病院正面玄関へ向かう横断歩道を渡る際、左右、特に駐車場から出てくる車が、表通りに入る信号が青だと歩行者がいても止まらずにそのままの勢いで通過しているのを何回か見ており、横断者が危険な思いをしています。病院としてデコボコを埋め込むなど、車に対し注意喚起できるよう、整備して欲しいです。

A 患者さま駐車場の使用に關しまして現状を確認したところ、ご意見の通り一時停止を無視して通行する車も見られましたため、安全対策の一環としてハンブ(段差)の改修工事と増設工事を致しました。貴重なご意見ありがとうございました。(患者様相談室)

ご意見をお待ちしております!

何かありましたら、各階にございます意見箱をご利用ください。メールによるご意見もお待ちしております。
goiken@chubyoin.pref.ibaraki.jp



おほめの言葉

●手術前は不安がありましたが、婦人科の雰囲気明るく、何より看護師さんが皆、やさしく接して下さったことが大きな安心感につながりました。

●入院中、お食事の熱いものは熱いうちに、冷たいものは冷やしていただき薄味でとても美味しくいただきました。

●駐車場に車輛の誘導員さんがいらっしゃってとてもスムーズに車を空きスペースに停める事ができるようになり、とても助かっています。

(*^_^*)皆さまの温かいお言葉にスタッフの心もほっこり温まりました。ありがとうございます。



茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

2013年11月
秋号
Vol.12

ほっとタイムズ

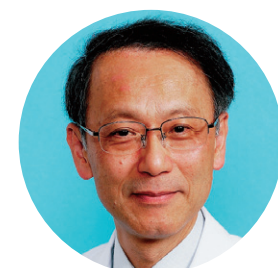
【編集・発行】茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/>

- 院長メッセージP1
- 病気を知ろう 豆知識:「肺炎」.....P2
- 院内トピックス:「新たながん治療紹介」P3

目次

- 院内活動P4
- 患者様からのご意見Q&AP4

院長メッセージ



【第12回】「秋」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター
院長 永井 秀雄

秋晴れの空に紅葉が目映いばかりです。患者さんにとって秋はどのように感じられるのでしょうか。私はいろいろな感想をお聞きしてきました。「紅葉が見られて幸せです。」「家族と温泉旅行ができるなんて夢みたいでした。」「年を越えることができれば幸せです。」「子供の入学式にどうしても出たい。」「満開の桜を見たい。」

患者さんの幸せを願うのは医療者の責務だと私は考えます。少しでも患者さんの思いに寄り添えるよう我々医療にたずさわる者は努力したいと思います。

自然な形で、仲間として、何よりも同じ人間として…。



当病院のシンボルツリー「ユリノキ」。
玄関正面にあります。

看護師募集

現在、嘱託職員を募集しています。

勤務部署・勤務日等は相談に応じます。
お気軽に看護局までお問い合わせ下さい。

あなたの「働きたい」をサポートします!

- * 質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
- * 教育、研修、安全管理体制をしっかりと整え、スタッフ全員で仕事と家庭の両立を支援します。

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

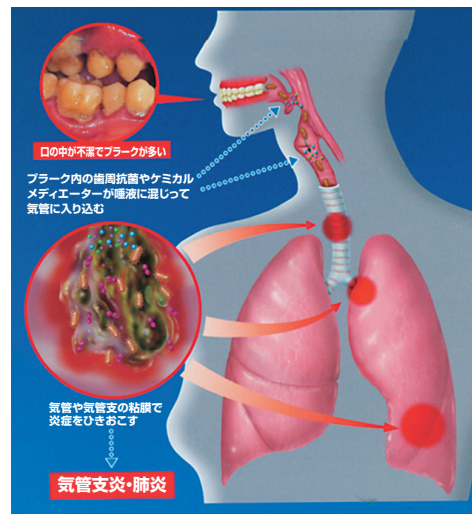
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/>



肺炎とは

肺には、吸い込んだ病原菌や、埃などを分泌物とともに外に出したり、免疫の働きによって、病原菌を防ぐ仕組みが何重にもあり肺炎を防いでいます。しかし、肺炎を起こす力が強い菌や、大量の菌が入った時、抵抗力が落ちた場合に発病しやすくなります。

肺炎を起こす力の強い菌で起こる、市中肺炎と、抵抗力が落ちた場合の肺炎の筆頭である、誤嚥（ごえん）性肺炎について説明します。

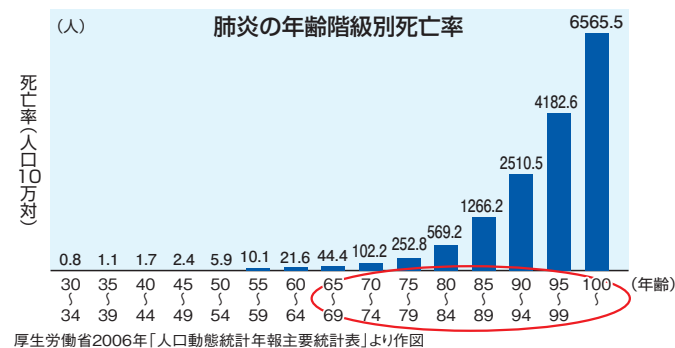


市中肺炎とその予防

健康な人にも肺炎を起こす市中肺炎の原因となる菌は、肺炎球菌、マイコプラズマ、肺炎桿菌（かんきん）などがあります。

70歳以上の方の市中肺炎は、肺炎球菌が一番多く、インフルエンザ菌、嫌気性菌、緑膿菌と続きます。中でも肺炎球菌は重症化、進行が早いことも多く、適切に治療を行っても治療効果がでる前に死亡することもあります。

この菌は重症になることが多いにもかかわらず、保菌という状態で、少量の菌が何の症状もなく鼻や、喉についていることがあります。集団生活が始まるとほとんどの子どもが保菌するようになり、成長するにつれ保菌率は低下しますが、高齢になると再び上昇してきます。



●呼吸器内科

橋本 幾太



肺炎球菌ワクチン

頻度も高く重症感染症の原因となる菌であるため、ワクチンが開発され、大きな効果が上がっています。

一般の方には自費での接種となりますが、効果の高いワクチンですので、肺炎を起こす頻度が高くなる65歳以上の方にはぜひおすすめします。

このワクチンは1回の接種で肺炎球菌による感染症の80%以上がカバーでき、個人差はありますが、1回の接種で5年以上の効果が期待できます。

誤嚥性肺炎

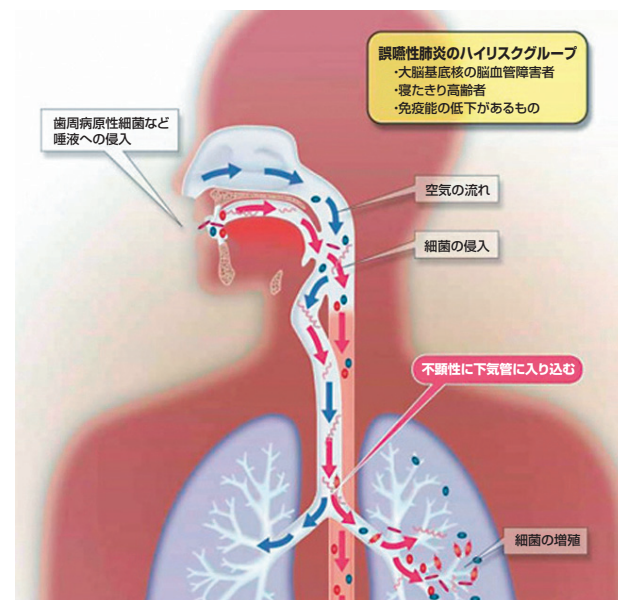
食事のときだけでなく、寝ている間などに、口の中のものや唾液、胃液が気管へ流れ込むこともあります。普通は、咳をして外に出したり、気管の粘膜の繊毛活動で外に排除されますが、一緒に流れ込んだ菌が原因となって「誤嚥性肺炎」が起こることがあります。

また、脳梗塞などにより、嚥下（えんげ）が低下している場合はさらに誤嚥が起こりやすくなります。

口の中にいる菌は、あまり発熱、咳、痰などの症状を強く出さないものも多く、肺炎がかなり進行してから気づかれ、治療が遅れることもあります。

誤嚥性肺炎の予防には以下の点が重要です。

- 歯磨きやうがいをして、口の中をいつも清潔に保つことにより、菌の量を減らすことができます。
- むせを防ぐために、食べ物はよく噛んでゆっくり食べたり、とろみ剤の使用など食事の形態を工夫する。
- 「食欲がない」「元気がない」「舌や皮膚が乾いているなど脱水の症状」などがなければ注意する。



院内トピックス



新たながん治療紹介

当院は都道府県がん診療連携拠点病院として、がんセンターの機能充実を行っているところです。今年新たにがん診療のために導入しました機器と治療方法についてお知らせいたします。

強度変調放射線治療（IMRT）

IMRTは、専用のコンピュータを用いて腫瘍の形に適した放射線治療を行うことができる新しい照射方法です。これまで一定だった放射線量の範囲を細かく調節でき、周囲の正常組織への照射を減らすことができるため、合併症の危険性も低減できるようになりました。

IMRTの対象とする疾患は、現在のところ前立腺がんと頭頸部がんが主ですが、今後、婦人科がん、その他の臓器の悪性腫瘍へ順次拡大していく予定です。



放射線治療装置リニアック。放射線を小さなビームに分け、各々の強度を変えることにより、腫瘍の形に合わせて放射線を照射する。

内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」

ダヴィンチはモニターに映し出された3D画像を見ながら医師がロボットアームを遠隔操作することにより内視鏡手術を行う装置です。

3D画像による大きな視野が確保され、多関節鉗子による精密な操作が可能になったため、傷が小さく出血も少なくて済みます。早期の回復や退院が期待でき、これまでの開腹手術に比べ患者さんの身体的負担が少ないのが特長です。

前立腺がんに対する前立腺全摘手術は世界的にダヴィンチを使って行うのが主流となりつつあり、平成24年4月の保険適用により日本国内においても急速に普及している手術方法です。



内視鏡手術支援ロボットダヴィンチ。

腎がんに対する凍結治療

経皮的凍結治療とも呼ばれるこの治療方法は、CTやエコーで体内の腫瘍（がん）の位置を確認しながらニードル（針）を刺し、高圧アルゴンガスを用いてニードルの先端部分を-170℃まで冷却することで、がん細胞を凍結・壊死させる治療法です。

主な特長としては、患者さんの身体的負担や痛みが少なく、体表面に手術痕がほとんど残らないことです。短期の入院期間（3日程度）で済み、比較的早く日常生活に復帰できます。脳梗塞・心筋梗塞、肺機能低下、高齢等で通常の手術が困難な患者に対しても治療を行うことができるというメリットもあります。



凍結治療の機械を使い、がんの位置を確認しながら治療する。